

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 坂本文子

本論文は、広義の機能主義的統語論の観点から現代クメール語における clause linkage (節の連接) を体系的に分析した研究である。第1章は本研究の目的、先行研究、用いた資料、資料を提供した話者を示す。第2章は、連接する節に現れる名詞句が同一指示であるかどうかによって、名詞句の組み合わせのパターンを列挙する。考察する名詞句は下記である。

- (1) 自動詞節：S (自動詞主語)。
- (2) 拡大自動詞節：S、E (受取人、受益者、行き先など)。
- (3) 他動詞節：A (他動詞主語)、O (目的語)。
- (4) 拡大他動詞節：A、O、E。

例えば、前の節が自動詞節で、後の節が拡大自動詞節の場合、(5)に挙げる、四つの可能性がある。(同一指示を等号で、非同一指示を不等号で、示す。)

- (5) (i) S=S、S=E、(ii) S≠S、S=E、(iii) S=S、S≠E、(iv) S≠S、S≠E。

クメール語の節の連接は動詞連続という方法を用いる。クメール語に限らず、動詞連続の研究では、主に主語 (S と A) の組み合わせだけを扱っていた。本章は、S、A、O、E の全ての組み合わせを検討する。データ中の全例文を丹念に分類することにより、(1)から(4)の名詞句の組み合わせとして可能な 346 通りのうち、資料に実際に表れた組み合わせは 54 通りだけであることを報告し、組み合わせに一定の傾向があることを指摘する。

第3章は、クメール語の節連接を Role and Reference Grammar (RRG) という文法理論の観点から考察する。RRG は、節の要素のレベルに nuclear (内核)、core (中核)、clause (節) を立てる。更に、節連接の種類に subordination (従属)、coordination (等位)、cosubordination (連位) を立てていた。本章はクメール語の事実を基に、transordination (超越) という新しいタイプを設定する。

第4章4は、第2章の結論と第3章の結論を合わせて、クメール語の連接を考察する。上記の 54 の組み合わせの内、ある種のものには分布に限定がある。しかし、ある種のものには分布の限定が弱い。例えば、A=S は、nuclear レベルの連接には例が無い。しかし、S=S、A=A、S=A は内核レベルの連接にも、中核レベルの連接にも、節レベルの連接にも、例が多数ある。この様に、本章は、名詞句の同一指示・非同一指示の組み合わせと連接のタイプの間に、著しい関連があることを示した。第5章は結論を示す。

本論文は統計的な視点を導入すれば、より実りのある研究になった点が惜まれる。しかし、本論文の分析と提案は水準が高く、クメール語の研究だけでなく、文法理論にとっても大きな貢献である。審査委員会は本論文が博士 (文学) の学位を授与するに十分値するものと判断する。